

7  
月



# 美園小だより

令和8年6月30日  
さいたま市立美園小学校  
第194号 児童数 1036名  
Tel 048(812)6611  
Fax 048(878)6660

旅・人・本

校長 河野 秀樹

立命館アジア太平洋大学元学長の出口治明氏は、教養を身に付けるには、旅・人・本が大切だと様々な著書で述べています。以前訪れた長野県小諸市にある島崎藤村博物館には、藤村の「人の世には三智がある。学んで得る智。人と交わって得る智。自らの体験によって得る智」という言葉が記されていました。子どもたちの学びは、まさに出口氏の旅・人・本によるものでしょうし、島崎藤村の三智なのだと思います。

今からおよそ25年前、私はロンドン日本人学校で3年間勤務していました。その時に、シェークスピア誕生の地ストラットフォード・アポン・エイボンで、英国人のANDYさんと日本人の敦子さん御夫婦が所有するナローボートで旅をする機会を得ました。

英国では産業革命時、大量の物資を運ぶために運河が開かれ、ボートが利用されていました。その後舟運は鉄道や自動車の普及により衰退しましたが、近年そのよさが再認識され、レジャーに観光にと整備されたのです。ボートは時速3マイル（人が歩くような速さ）、いろいろな景色を見て考える時間が得られました。牛や羊、馬が草を食む様子を見ては心が和み、白鳥やカモなどの水鳥が来ればえさを与えたくくなります。当時4歳だった娘が白鳥にえさを与えると、そのえさが長い首をゆっくりと通っていくのが分かりました。水門の開閉も「対向する船はいないか」「今は水位が高いから…」「上流に向かう時は船側の水門からゆっくり開けて…」など、間違えないように一つ一つ確認しながら作業しました。水門の開閉には結構体力がいることも身をもって知りました。「どこから来たの?」「〇〇について知っている?」行き交う船の乗員や川辺の家に住む人々、釣りや散歩を楽しんでいる人々と会話が始まります。運河から見える家々や手入れの行き届いた庭を見ては、豊かな生活を想像します。コーヒーをすすりながら操縦すると、とても贅沢な気持ちになりました。その時、ANDYさんに教えていただいた言葉が「If you see less, you see more.」です。私はこれまで、このようにゆっくりと旅をしたことはありませんでした。常に自分をせかして効率よくたくさん見聞をしたいと考えていました。しかし、見るものを絞りゆっくり時間をかければ、新たな気づきがたくさんあることを知り、「本当の豊かさとは何か」を考えるきっかけとなりました。

学ぶことに場所や年齢は関係ありません。学ぶ機会はいつでもどこにでもあります。変化の激しい社会の中で、私たち教員も「知りたい」「できるようにになりたい」という好奇心や意欲をもって、常に学び続ける姿勢を大切にしていきたいと考えています。子どもたちにとって、夏休みは実際にその場に足を運び調査・見学したり、図鑑や書籍、パソコンで調べたり、身近な人や詳しく知っている人に話を聞いたりできる絶好の学びの機会になると思います。